

国立大学法人 長岡技術科学大学 御中

公益財団法人 原子力安全研究協会

国際原子力人材育成イニシアティブ事業 事後評価結果について

貴機関において実施された「国際原子力人材育成イニシアティブ事業」に係る事後評価結果を、以下のとおり通知いたします。

事業名	技術的専門性を要する社会課題の解決に寄与する実践的人材の育成
実施機関	長岡技術科学大学
実施期間	令和3年度～令和5年度

【評価結果】

B	ほぼ計画通りの成果があげられた
---	-----------------

- ※) S : 極めて優れた成果があげられた
A : 計画以上の優れた成果があげられた
B : ほぼ計画通りの成果があげられた
C : 計画通りの成果があげられなかった

【評価委員会所見】

＜推奨意見、評価理由＞

- 原子力業界でこれまでに実施していなかった討論型世論調査を援用した対話型の教育手法を取り入れ、文系教員の協力を得つつ、多様な大学等にて実施したことは評価できる。
- 学生がモデレータを担って議論をリードするような教育手法は教育効果が高いと考えられる。
- コロナ禍による影響や、実施期間中に ALPS 処理水の海洋放出が実施されるなど、提案時の計画より変化が生じたが、臨機応変に対応したことも評価できる。
- 一方で、本教育手法を展開するために合理化することは理解するが、参照した討論型世論調査にてアンケート調査を3回実施するとしていたところ、本教育手法では初回を除外し、2回としている。これにより、想定通りの教育効果を十分に得られるかどうかは疑問であり、しっかりと検証する必要がある。

＜今後への参考意見＞

- 本事業が原子力分野の人材育成を主眼としている以上、出口調査は原子力産業への興味の変化等も含めた調査の実施が望ましい。

- 折角のよい取り組みであるため、活動を広く知ってもらおう、積極的に成果の公表等を行うことが望ましい。
- 事業の実施に当たっては、その継続性が重要となるが、将来に向けて、現課題終了後も定常的に実施するための仕組み(予算や実施体制を含む)をどのように作るのかも、重要検討課題であるように思われる。

以上